

TOPICS

南都銀行・ベトナム（ホーチミン）視察ミッションに参加して

「チャイナ プラス1」として注目されているベトナムを訪問し、進出日系企業の視察を通じてベトナムビジネスに理解を深めるため、南都銀行主催の「ベトナム視察ミッション」(7/19(水)～22(土))に参加しました。今回の視察は、ベトナム進出や現地企業との取引に関心のある企業の経営者を中心に総勢19名の参加となりました。

1. 最近のベトナム投資環境について

〔ジェトロ・ホーチミン事務所海外投資アドバイザー〕
浜野 幸夫氏の現地講演より

ベトナム概要

ベトナムの地形は、南シナ海に沿って南北に長く、日本とよく似ている。首都ハノイを中心にした北部は、中国文化の影響が強く残り、訪問したホーチミンを中心とする南部は、熱帯の陽気さと、活気が溢れている。ベトナム南部と北部では、歴史的背景が異なり、経済発展の程度、人々の気質も大きく異なる。北部は、社会主義の時代が長く、経済の自由度が少ない。一方、南部は、経済への関心も強く、資本主義国に近くビジネス感覚も鋭い。

ベトナムの正式名称はベトナム社会主義共和国。国土の面積は約33万km²と日本の約9割であり、人口が約8,200万人。

言語はベトナム語、通貨がドンである。

日本と異なり若い人が多く、40歳以下が全体の約8割を占める。また、バイク



ホーチミン市街

保有数は約1,130万台と自動車(約68万台)の16.6倍もあり、街中にあふれている。

2005年のベトナム経済は、経済成長率が8.4%、一人当たりのGDPが640ドルと低いが対前年比16.3%増と伸長。また、外国からの投資額は、58.5億ドル(対前年比38.6%増)と経済は著しく拡大を続けている。ベトナムへの海外投資は、1996年前後の第一次投資ブーム、そして2003年頃か

ら第二次投資ブームが始まり現在も続いている。ベトナムへの投資累計額(1988～2005年)は、第一位が日本で4,513百万ドル、第二位がシンガポールの3,620百万ドル、第三位が台湾で2,939百万ドルとなっている。近年、ベトナムの国策により、日本企業の同国への進出は、ハノイを中心とした北部に大企業の工場が集中している。

2. 進出日系企業視察でのヒアリング

(1) TAKAKO-VIETNAM 社
【株式会社タカコのベトナム工場】

株式会社タカコは、京都府相楽郡精華町に本社を置く建設機械や工作機械などに必要な油圧機器部品のメーカーで、世界に知られている。ベトナム工場は、敷地面積20,000m²、建物面積約10,000m²、従業員約500名。近い将来、同工場では増産を計画しており、また、段階的に完成品の生産比率も高める予定。同工場のあるV S I P工業団地は、独自の発電設備を設置し、総電力使用量の約1/3をカバーできており、上下水道等のインフラも整備されている。ベトナム従業員(ワーカー)は、おとなしく、真面目な性格の者が多い。ワーカー



TAKAKO-VIETNAM 社の玄関前にて

は、視力が良く(2.0～3.0)、精密部品を製造している会社にとっては好都合である。ベトナムにおける外資系企業のワーカー離職率は20～30%と高いが、同工場の離職率は2～3%と低い。そ

の原因は、近隣他社より給与面で良い待遇をしている面もあるが、石崎社長（日本本社）自らが、ワーカーのために工場内の空調や室温管理には工夫をこらしたり、食堂の周囲に熱帯植物を植え込んだりして、明るく・清潔な労働環境作りに取り組んでいることが功を奏していると思われる。

(2) M T I V I E T N A M 社 【丸高衣料株式会社のベトナム工場】

丸高衣料株式会社は、大阪市中央区にある各種子供服製造および販売している企業である。ベトナム工場の実質的な稼働は、視察の翌日からであり、今まさに、誕生しようとしていた。現在、ワーカー約 50 人を雇用し特訓中である。来年 9 月末にはワーカーを 200 人に増やす計画をしている。既に同社は、7 年前に中国・浙江省へ工場進出を

している。中国人ワーカーに比べて、ベトナム人は親日感情が強く、性格は真面目で、よく働き、器用である。今後、日本国内の工場およびベ



縫製の特訓中

トナム工場で高級子供服を製造し、中国工場は低価格品を製造する計画。ちなみにワーカーの賃金は、日本円で 7,000~8000 円/月である。

(3) V I N A C O S M O 社 【株式会社モクケンのベトナム工場】

株式会社モクケンは、シャンプー、リンスや化粧品を O E M（相手先ブランドによる製造）を専門としている大阪市此花区にある企業である。ベトナム工場は、10 年前に設立し、ワーカーは約 180 名。全ての製造工程は“人海戦術”である。豊富かつ低賃金の労働力を使って製造コストを下げている。

シャンプー、リンス、化粧液などの容器詰め、容器や化粧箱のシール貼り、検品、箱詰めなど全ての工程が手作業で行われており、“まさにベトナム工場”といった感がした。同社



容器詰め作業

の入所しているタントアン輸出加工区（工業団地）も「産業特区」であり、多くの優遇策を企業に与えている。

(4) V I E - P A N I N D U S T R I A L C O . L T D

日本企業がベトナムへ工場進出するには、多額の初期投資や、ベトナムに精通した人材などが必要となる。そこで同社は、所有工場を進出希望企業にリースし、また入居した企業に対して労務管理、経理などの事務代行支援を行う目的で設立された。

同社には日本人の総括責任者が常勤しており、日本語環境で業務が可能であり、さらに各種支援を受けられる。そのため進出企業は、本来の業務である生産に専念ができ早期に事業を軌道に乗せられる。ちなみに 1,000㎡の工場リース代および事務代行費用は、1 カ月当たり約 60 万円である。

(5) A C E C O O K - V I E T N A M 社 【エースコック株式会社のベトナム工場】

同社は、ベトナム国内 6 カ所に即席麺工場を有し、主にベトナム国内向けに販売している。7~8 年前まで同社は、同国内シェアが数%と低かったが、ここ 2~3 年で同国内シェアの約 8 割を占める。その成功要因は、

高品質の原材料が現地で生産可能となり、最新の製造設備を導入することにより、高品質、低価格で製造が可能となったこと



同社の事務所前にて

とである。同社は、もともとブランド力があつたので売上が急増し、現在、24 時間・3 交替で年間 25 億食を生産している。

3. おわりに

中国への投資が集中するなか、ベトナムは政情が安定しており、今、リスク分散先として選ばれている。国民は、親日感情が強く、勤勉で優秀である。

人口 8,200 万人という市場は、経済規模的にはさほど大きくはないが、アジア諸国のなかでは中国に次ぐ経済成長率を誇っており、企業にとって「魅力ある投資先」の一つである。（武村 好俊）